

2023年4月30日(日)

老球の細道728号

4月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新年度、新学期の4月。高校教員から年金生活の国家公務員と化した現在、新たな環境変化は特になし。孫たちがいつの間にか成長する姿と更なるバスケット指導スキル向上を夢見て荒野を進むしかない。カフカも言う「真実にいたる道に道案内はいない。有効なのは辛抱強い捨て身の冒険だけ。迷わずすべてを毅然として受け入れる。人間に下された刑の宣告は生であって死ではない」。桜、チューリップをあと何度見れるだろう。何事も一期一会。

1・テレビから

◆「主人公が好きでなくては、その役をやれません」〈BSNHK「アナザーストーリー・幸福の黄色いハンカチ・高倉健の覚悟」〉：高校時代、日曜日部活練習の後は健さんの映画をよく見たものである。映画を観た後の帰途は顔つきから歩き方まで健さんになりきっていた。「黄色いハンカチ」でイメージチェンジした健さんも良かった。

2・読書から

◆「昨日を忘れ、明日に心がかりのない者には、吸う息、吐く息みな不老長寿の妙薬」〈山岡荘八著『徳川家康5』講談社〉：明日の命もわからない戦国乱世。多くの大名が短命で人生を終えたが、家康は食事や健康に気を使い、乱世を治め長生きした。「長息は長生きか」。

◆「現在の泰平が大きな戦乱の後にきずかれた泰平であって、その泰平の下になお大きな戦乱の動きがかくされているを感じとれなくしてしまうのである」〈野間宏著『歎異抄』ちくまぶっくす〉：生誕850年の親鸞の言葉。「新しい戦前」が叫ばれる今、どうする日本。

3・新聞等から

◆「老兵は死なず。昔一ただ消え去るのみ。今一まだ戦うのね」〈朝日：かたえくぼ〉：長寿社会の昨今、書物の主流が高齢者の健康とお金に関する事。しかし、世の中にはお金と健康のみならず、生涯現役を志すスーパー老人が色々な場で活躍。負けられない。

◆「簡単に得たものはまたたく間に失われる」〈朝日：天声人語〉：この通信もネタ切れになってきた時はいよいよチャットGPTの力を借りなければならないか。しかし、悩み、産みの苦しみと戦いながら書いたものは自分の知となり肉となる。アインシュタインは「重要なことは、問うのをやめないことだ」という。

◆「“わからない”ということをおそれすぎてはいけない」〈折々のことば：天野祐吉〉：バスケットも改めて勉強し直すとわからないことが次から次と出てくる。養老孟司さんは「わかろうとする努力は大切。わかってしまっただけではいけない」。常に初心者であれということか。

◆「われわれの目的は成功ではなく、失敗にたゆまず進むことである」〈朝日：天声人語〉：1969年米国アポロ11号月面着陸のイメージがまだ残る私にとっては残念な「あとちょっと」だった。失敗の後、袴田代表は「着陸までのデータを獲得できた。次へ向けた大きな一歩だ」と超前向き。「勝者とは、失敗しない人ではなく、あきらめなかった人である」。